

# 2011年地球・海洋 SF ノミネート作品の紹介

## ■新作部門

### ●国内長編小説・実写作品賞

#### ・「夏海紗音と不思議な世界」(直江ヒロト)

少女・紗音の不思議な力で、異世界の側へ引っ張り込まれた中学生・悠馬は、帆走を主とした海洋冒険(=謎の宝探し)へ旅立つ。太平洋の魔の海を越え、目的地・虚島に到着するが反乱が起こる。さらに紗音の力が、世界を滅ぼすかもしれないものを深海から引き寄せた事が判明する。

明快な海洋冒険ものとして1巻でも完結しているが、第2巻はパワー「幻影の航海」を匂わせる展開の、呪いのアイテムや海賊、不老不死の泉等が登場する。

#### ・「スキュラ・ダークリー」(六塚光)

およそ百年前、地球の自転軸が真横に転倒する、いわゆる「地軸転倒」が発生。あまたの命が失われ、文明は崩壊する。日本列島は約一万の諸島に変貌し、西部が諸島協定機構、中部が日本諸島連合、東部が日本共和国の三勢力がそれぞれの主権を主張している。地軸転倒後の日本諸島では夏至の前後2ヶ月間、太陽は北天で小さな円を描きながら24時間輝き続け、冬至の前後2ヶ月間、太陽は南の水平線の向こうに隠れ続ける。

軸転倒後に海獣(リヴァイアサン)が出現するようになる。海棲生物を数十倍に巨大化ものだがそのバラエティーは魚のような姿、タコやイカのような姿、ウニやイソギンチャクのような姿、それらを適当にごちゃ混ぜにしたような姿、事実上無限大。姿、器官、内蔵機構は一体一体バラバラなのにその行動様式にはおおむね一様であり、種としてどう分類されるべきか、またその生態、繁殖についてもほとんど明らかになっていない。

海獣は人間を大好物とし、それに対抗できるのは吸血鬼だけ。血針から送り込まれる麻痺液は人間に対しては局所麻酔だが、海獣に対してはその脳や心臓などを麻痺させる……。

#### ・「千葉県立海中高校」(青柳碧人)

海流発電システム(ペルノワ式四層型回転翼。架空の技術)が実用化され、また下水汚物のリサイクルによって水中でのみ使用可能なシーコンクリートを用い、海面上昇の時代に備えて東京湾の千葉県側に実験的海中都市、千葉県海中市が誕生した。そこにある県立海中高校に通う女子高生の物語。

海中市がやがて破綻して10年後、港区の都立高校の新聞部の生徒が、海中高校出身の化学教師を取材し、その切ない思い出がよみがえってくる……。

#### ・「ペンギン・ハイウェイ」(森見登美彦)

少年少女が遭遇した、謎のお姉さんとその周辺で起こった不思議な出来事。ペンギン状のものとの出現とともに疑似世界<海>が発生し、それら異変がお姉さんの体調と関連している事が判ってくる。ソラリスのようなイメージも持つ<海>は、調査隊も呑み込むほど巨大になり、少年とお姉さんは問題を解決するためにある決断を迫られる。かつての少年ドラマシリーズを彷彿とさせる、夏の昼下りの物語。

#### ・『希望』という名の船にのって」(森下一仁)

シベリアのツンドラ地帯の永久凍土が溶けて発生した正体不明の病原菌により、地上の人類が絶滅の危機を迎え、他の恒星系を目指していると思われていた宇宙船は、実は、海中に逃れた12家族が乗る巨大な潜水船「希望」だった。

「ゲンゴロウ」に似た形の潜水船は、トリチウムを原料とする核融合炉を動力源とし、出航後三ヶ月で浮上不能となり、太平洋の水深3000mの海底火山に。それから15年後、経年劣化により食糧生産システムなどに問題が生じ、何も知らずに育った子供たちがその秘密を知

ることになる……。

#### ・「流跡」(朝吹真理子)

敵島神社のような構造物を抱える静謐な水都のような所で、語り手は渡し舟を生業にし、それが夜の仕事だという。リアルな肌理と香港的カオス等が混淆した幻想的な作品。

#### ・「華竜の宮」(上田 早夕里)

25世紀。太平洋を取り巻くプレート沈み込み帯のスタグネーションスラブの一斉崩壊が始まり、白亜紀以来のホットブルームの再活性化による海底隆起で、多くの陸地が水没する。その未曾有の危機と混乱を乗り越えた人類は、再び繁栄を謳歌していた。陸上民は残された土地と海上都市で高度な情報社会を維持し、海上民は海洋域で(魚舟)と呼ばれる生物船を駆り生活する。

陸の国家連合と海上社会との確執が次第に深まる中、日本政府の外交官・青澄誠司は、アジア海域での政府と海上民との対立を解消すべく、海上民の女性長(オサ)・ツクソメと会談する。両者はお互いの立場を理解し合うが、政府官僚同士の諍いや各国家連合の思惑が、障壁となってふたりの前に立ち塞がる。

同じ頃、IERA(国際環境研究連合)はこの星が再度人類に与える過酷な試練の予兆を掴み、極秘計画を立案した……。

#### ・「前夜の航跡」(紫野貴季)

『海に喚ばれた魂を、その美しき仏師は浄めるといふ。青年将校たちに訪れた奇跡。涙に彩られた異界との邂逅。』(帯文)

海軍省・特務機関の青年士官と若き仏師による海の幽霊探偵作品。幽霊騒動を解決する「左手の霊示」、記念艦・戦艦三笠の異常を解決する「哭く戦艦(ふね)」等、5編を収録。

#### ・「樹環惑星—ダイビング・オパリア—」(伊野 隆之)

惑星オパリアは酸素に富んだ大気を有し、高緯度地域が一面の氷原で、中緯度から低緯度に掛けて分厚い有毒な雲に覆われ、そのうち低緯度に島のように高地群が点在する。雲の下の低地には天を突く巨木からなる森がある。高地と低地は数千mもの断崖で隔てられている。森には咲き誇る花がなく、多様な色彩で呼び寄せるべき鳥も昆虫も小動物もいない。森は自ら生み出す多様な化学物質のカクテルで会話をしている。一方、高地には植生が一切なく、入植者が居住するドーム群が存在する。

そのオパリアで新型の森林熱症候群が発生し、患者が激増。オパリアの低地はアストラジェニック社が開発権を買取っていた。その森の中で何か異変が進行していく。生態学者のシギーラは20年ぶりにこの惑星に降り立ち、森の中の異変を探ろうとする。一方、他の星系ではハイライザーと呼ばれる新型の覚醒剤の乱用が広がりはじめていた……。

### ●海外長編小説・実写作品賞

#### ・「グリーン・ワールド」(ドゥーガル・ディクソン)

『フューチャー・イズ・ワイルド』の著者による初のSF。深刻な環境汚染により地球を捨てた人々が恒星間移民船スカイフラワー号でアスカリス星系第二惑星グリーンワールドに到着。そこで「ここではおたがいよそ者ですね」という新たな歴史を歩みはじめるが、危険な生物との厳しい生存競争のもと、惑星で食料を確保し、惑星の材料を用いて道具をつくるようになり、コンピュータが機能しなくなって過去の知識が読み出せなくなり、年月とともに先住生態系への負荷を最小限にしようという「過去の教訓」は人々の生活、文化に合わなくなっていく。いくつかの生物種が絶滅させられ、それが生態系のバランスを崩し始める。そしてその危機を説こうとする者は人々から疎んじられはじめて……。

## ・「ビースト☆レスキュー2 恐怖のビースト晩餐会」(ビーストリー・ボーイズ)

絶滅の恐れのあるビーストたちを保護する王立ビースト愛護協会に、負傷した海洋モンスター、シェルバック・クラークンが運ばれてきた。協会の獣医フィールディング博士が治療にあたるが、猛毒をもっているため近づくことさえできない。オオカミ男のウルフと妖精のティアナは、クラークンを助ける方法をこっそりと探し始める。

## ・「ターニング・ポイント〈1〉ファイヤーストーム 神秘の光」2008/05／「ターニング・ポイント〈2〉ワールウィンド 運命の嵐」2008/11／「タイムロック (ターニング・ポイント 3)」(デイヴィッド・クラス)

高校生ジャックを突然襲った集団ダークアーミーは、歴史改変を阻止するため千年後の地球から来た組織だった。彼らは環境破壊が人類を救済すると考えており、海洋(第1巻)・アマゾン(第2巻)・北極圏(第3巻)の生態系を根絶やしにしようとする。ジャックは特殊な能力を持ち、未来から送り込まれてきた希望の光…らしい。

物語の展開は暗鬱な場合が多く、その辺りも含めて環境保護団体グリーンピースの推薦かもしれない。

## ・「失われた深海都市に迫れ」(クライブ・カッスラー、ポール・ケンプレコス)

書名の「Lost City」は、大西洋中央海嶺の熱水噴出孔の中でも炭酸塩チムニーや蛇紋岩の存在で特異な場所。水深は比較的浅く、800m。ここが舞台というだけでも興味をそそられますが、もうひとつの題材が“*Caulerpa taxifolia*”、日本名：イチイヅタ、別名「キラー海藻」。

水族館の水槽の強い紫外線で変異した種が地中海で猛威をふるっているとのこと。このイチイヅタがLost Cityでさらに変異して、大西洋の海面を覆い始めるという内容。

それに「賢者の石」、「死の商人」、「ドラキュラ伝説」、「ドクター・モローの島」、「エドガー・アラン・ポー」などが絡む、盛り沢山のストーリー。

## ・「北極海レアメタルを死守せよ」(上下)(クライブ・カッスラー、ダーク・カッスラー)

1848年、北極海ヴィクトリア海峡である鉱石を手に入れた探検船で船員が次々と錯乱状態に陥り、失踪する。

ヴァンクーヴァーで海洋調査中のダークとサマー兄妹は三人の無傷の死体を乗せた漁船を発見した。その近くにはテラ・グリーン産業の炭素隔離工場があった。産業起源の二酸化炭素を液化し、地中深くにポンプで注入するもの。ところが彼らはそれを海中に放出していたのだった。一方、生化学者リーザはレアメタルのルテニウムとロジウムを触媒にして人工光合成実験に成功したが、その実験室が何者かによって爆破された……。

## ●アニメ・コミックス賞

### ・「ドラえもん：のび太の人魚大海戦」(岡田康則)

のび太たちは、ドラえもんが架空水面シミュレーター・ポンプで街中に作り出した架空の海で、トスキーや架空海水まきぞえガスを使って魚を集め、架空水体感メガネをかけて遊び始める。そこに人魚族の姫、ソフィアが紛れ込む。人魚族は約5千年前に怪魚族により汚染されたアクア星から移住し、地球の海底に町を造り暮らし始めたのだという。ところが怪魚族が人魚族の守る宝「人魚の剣」を狙って地球にやってきた……。

### ・「世界の合言葉は水―安堂維子里作品集」(安堂維子里)

海・地球的なものだけ紹介すると「塩害の季節」:30年ぶりに”エンガイ”が襲来することが天気予報される。無数の魚が飛び交い、”目”にはザトウクジラまでが……。「海のお天気」:嫌なことがあった女子高生。海浜で同じ制服の女子高

生が海に入っていく。なぜか息ができてその女子高生の家までついていく……。

「メルトイズム」:私と地球を分けているものは……?

「季・節・水」:私たちが大気の下に済む生き物……という感性。降る雪を見て、海底で見るマリンスノーってこんなかな、って私も感じたことがあります。

### ・「ナチュン」(都留 泰作)

作者は文化人類学者だそう。物語の舞台(のモデル)は近未来の池間島などの宮古諸島のような。天才数学者とイルカという組み合わせ。〈人工鰓肺(さいはい)〉という水中呼吸装置が登場する。

フィールズ賞とノーベル物理学賞を二重受賞したフランシス・デュラム教授は、2035年、42歳で不幸な事故により大脳の前頭葉の一部と左半球の大部分を失った。数学界を引退してイルカの生態研究に転進。彼が作ったビデオを14回見た京都大学大学院生の石井光成は、自意識のある機械ができてしまうアイデアを得る。人工鰓肺の手術を受け、込屋群島の真計島でイルカの研究を始める。

そこで口のきけないドル子/泥女ドロメ/みことに出会う……

### ・「発明ソン太〔完全版〕」(あさのりじ)

『海底、地底、無人島へ、数々の発明品でピンチを切り抜ける少年発明家ソン太の活躍』(帯文)

1961年~1965年に「少年」で連載され、完全版は今回が初めてとなる。第一回「海底に行く」に始まる全48話を収録。様々な奇天烈アイテムに混ざって、水素燃料電池自動車も登場する。

## ●短編・未刊行作品賞

### ・「カッパの王」(田中啓文、「SFマガジン」2010年2月号収録)

JAMSTECに就職する事を夢見る青年は、ある日を境に奇妙な幻影が見え出す、という小松左京「海の視線」に似た展開ながら、最後に脱力必至なお話し。

### ・「娼婦たち、人魚でいっぱい」(山尾悠子、「歪み真珠」に収録)

死火山の傾斜した土地に眠る伝説、猥雑な海の神の活人画芝居、海の瘴気と酒で濛々とする港町で、船乗りたちに噂される人魚の物語。

### ・「マトリカレント」(新城カズマ、「書き下ろし日本SFコレクション:NOVA2」に収録)

海中に沈んでいく皇宮の女官テオドラは、海をわたる者、アレクシオス・アレクサンドロスに救われる。壺の中の〈油〉がテオドラの体をくまなく包み、テオドラも海をわたる者となる。やがてテオドラはアレクシオスと同じように眠りを取りこなすようになる。彼女は鯨のふりをした巨大な蛸を見た。死せる鯨たちの骨が豊穡の地となるのを見る。アレクシオスは沈船から擲り上げてきた人々はアレクシオスの民となる。彼女は深淵の〈唸り〉を聴く。

その〈唸り〉を地上の文明人も発見する。彼らは海底に無数のケーブルを巡らせ、やがて海を酸化させ、深層海流の蛇行を急激に変動させ、ついに彼らは海に棲む人々を発見する。それはさまざまな論争を引き起こし……。

### ・「海聲」(石神茉莉、「音迷宮」に収録)

太平洋航海の途上、幽霊船を率いる人魚達の歌に遭遇するも、唯ひとり無事に生還した語り手の、幼児期の記憶を巡るお話し。

### ・「ハルカと彼方」(萩尾望都+田中アコ、「菱川さんと猫」に収録)

化け猫ゲバラと化けを見通してしまう女性の駆け合いに、不可解な事象が絡み合うという構成の物語。

第2話にあたる本作は、海からの使者の化けである青年（リュウグウノツカイ？）と、その妹の抱える問題の解決を図ろうとする物語。

・「ライカ ライカ」（山崎廉、月刊「アフタヌーン」2010年10月号（付録）、2011年4月号（読切）

マッコウクジラが船長を勤める宇宙船でのお話し。船員とクジラ船長のやり取りが楽しいが、クジラであることの意味・役割は不明である。

・「人魚の海」（笛地静恵、「原色の想像力」に収録）

マグリット風的大型半魚人を、食用として捕らえる超巨大な人魚たちが海洋を征している世界。人間の男は、巨大化前に契った女とのみ交流可能だった。お話しは、人魚を利用し陰謀をめぐらす国家との対決へと展開する。

## ●画集・絵本・年少向け作品賞

・「パパとミッポと海の1号室」（田部智子）

5階建ての古いマンションで起こった不思議な出来事。存在しないはずの地下1階には、記憶を封印する魔法が掛かっていたが些細な事で外れ溢れ出し、中生代の海につながってしまう。

・「動物の鳴き声 オーシャン：音がでるとびだししかけえほん」（A. J. ウッド、バレリー・デイビス）

イルカ、アザラシ、ザトウクジラなどの声が聞けるしかけ絵本。内容：海岸のざわめき、大西洋の海中、カリブの海、サンゴ礁の生物、氷の海岸で

・「深海の世界 科学しかけ絵本」（ジョン・ウッドワード）

凝った作りのしかけや断面図で、深海の生き物の特徴、生態や環境をわかりやすく解説した科学絵本。

・絵本「かしこい さかなは かんがえた」（クリス・ウオーメル）

昔々大昔、とても賢い魚が海の外を見たくて、上陸する方法を思いついた。ひれの上に足を履いて闊歩するが、地上はまだまだ寂しい世界だった。色使いの鮮やかさが心に残る絵本。

・「ジュゴン：海草帯からのメッセージ」（土屋誠、カンジャナ・アドゥンヤヌコソソ監修）

タイにおけるジュゴン研究・保護の第一人者などによりタイで出版された絵本「キュートなジュゴン」に、日本語訳文とジュゴンの生態について沖縄での実態などの解説を加えた本。

・「ひかるもの」（とくひらようこ作・絵）

海洋の大部分が太陽光の届かない暗黒世界であることを気付かせてくれる作品。

深くて真っ暗な海の底にすむ二匹の仲良しクラゲは、光をもったほかの生きものたちにあこがれ、その光を手に入れるため旅に出た。出会うのは、チューブワーム、クジラの骨、コウモリダコ、クダクラゲ、キワ・ヒルスタ、チョウチンアンコウ、ウミエラ、エソ、タカアシガニ、クモヒトデ、リュウグウノツカイ、ラブカなど。出版・印刷は、真っ暗闇に浮かぶ「ひかるもの」たちを再現するため、独自の特殊印刷を開発した高知市の会社。

・「緋いユリ 小島文美画集」（小島文美）

怪物画家・小島文美の画業を収録した初画集。「異形コレクション」シリーズや「YIG」「魔指淫戯」「妖魔鬼」等の菊地秀行作品を含む、耽美で怪物な海の妖魔ども等を描いた華麗なる作品集。

## ●ノンジャンル・クロスオーバー作品賞

・「海のタイムトラベラー 第1回 生命の誕生／第2回 生物の進化／第3回 北極からの提言」（BS世界のドキュメンタリー、フランク・シェッツィング）

独語圏で200万部以上の大ヒット作となった海洋SF超大作「シュバルツ」（邦題「深海のYrr」）の執筆時の取材をもとに書かれたノンフィクションの映像化。原作ではビッグバンから生命誕生と進化、雪玉地球説、海洋大循環コンベアベルト、メガ津波などの地球科学の興味あるテーマをカバー。海洋開発分野でも海上輸送、海洋バイオ、海洋エネルギー、自律型無人機、動く人工島までわたる。これらの広範な分野を、図表を一切使わずに巧みな比喩で面白く一気に読ませてしまったのだが、その映像化は実に見事。

・「もしも月が2つあったら ありえたかもしれない地球への10の旅Part2」（ニール・F・カミングス）

「もしも月がなかったら」の続編。前編では月を持たなかった場合、月がもっと地球に近い場合、地球の質量がもっと少ない場合、地球の地軸が90度傾いていた場合などの思考実験を行った。今回は地球が2つ目の月を補足した場合、地球が巨大惑星の周りを公転している場合、月が逆向きに公転している場合、地球の地殻がもっと厚い場合、太陽の反対側に反地球がある場合、地球に太陽が2つある場合などの思考実験を行っている。それぞれエスプリの利いたSF短編付き、

実はこれらのケースよりも、地球の四分の一サイズという大きな月を従えている現実の地球の方が極めてユニークなのだ。

・「クジラと海とぼく」（水口博也）

写真家・海洋ジャーナリストの著者が、ウミガメやクジラに出会った少年時代、研究者になろうと思っていた大学時代、はじめてのホエール・ウォッチングなど、海の生きものたちを相手にする仕事につくまでを綴る。写真ではなく、やさしい筆致の挿絵が多数添えてある。

目次：少年時代（ウミガメが来る浜、顕微鏡をのぞく、クジラという動物、海中世界へ、いくつかの失敗、さらなる失敗、クスターの世界、クジラの姿、イルカとの出会い、水中撮影を試みる）、大人への階段（大学で学ぶ、臨海実験所、沖縄へ）、クジラと泳ぐ（はじめてのホエール・ウォッチング、自分についての再発見、母子のクジラ、巨鯨シロナガスクジラ、クジラと遊ぶ）

## ■オンライン作品・同人誌賞

・「バブルダイバー —BUBBLEDIVER—」（茶林小一）

XXXX年、極地点より打ち上げられた超巨大移民船団がテロ組織の案役により爆発四散。それが極地点と周辺海域の永久凍土を一瞬にして気体に変える。全惑星規模の“カミの津波”が地表を完全に洗い流した後、かつてない長期的な豪雨が地表を水没させる。地球人口の9割を失い、今や世界の9割を海が占めることとなる。立ち上がった人々は海の中の資源を求めて潜行服や着練身（シェラフ）と呼ばれる高機動型汎用潜行艇を操って深海へ潜るようになる。

その深海には大量の有害物質の流入によって多くの海洋生物が死滅する一方、魚類型変異種（ディーブワズ）や海洋哺乳類型変異種（ダゴン）が遊泳している。

駆逐艦を改造した海洋探査艇こんごうに新しく乗り組んだテツロー、三姉妹たちの成長物語。

・「同人誌「保存船舶」Vol.1/Vol.2」（保存船舶研究会）

Vol.1は主に東日本方面の保存船舶を取り上げたもの。全国の保存船舶で知りうるものを網羅し、巻末には全58の保存船舶の概要を伝えるリストを添付。カバーイラストは客船ファンには著名な船絵師PUNIP氏による。本邦初公開の終航直後の羊蹄丸の写真や第五福竜丸の変遷を一般配置図なども公開。砕氷船「宗谷」と潜水調査船「白鯨号」も掲載されている。

Vol.2は中部日本から西日本を中心に、東北、北海道などの船舶へも

目を向けている。また、今回は広義な意味での保存船舶として北九州および福島の「軍艦防波堤」も網羅。vol.1 同様にオムニバス形式で様々な視点から保存船を考える冊子となっている。航海練習船／海洋調査船「東海大学丸Ⅱ世」、科学調査用潜水艇「くろしおⅡ号」も掲載されている。

#### 連載 4 コマまんが「さめっこさめな」 (ぼに〜M (黒田あきら))

<http://samena.sakura.ne.jp/comic/comic2/comic2.shtml> (1-430)

<http://samena.sakura.ne.jp/comic/comic4/comic4.shtml> (431-565)

新種の鮫「さめっこさめな」が動物園を舞台にして繰り広げるほのぼの系 4 コマまんが。メス鮫のさめな、人魚のハイミイ、さめなの腹違いの妹こさめ、人面犬のあの御方、飼育員・水族館従業員、動物学の三ツ矢教授、犬娘の乾ぬえ、常連客が登場。2000年3月31日に連載開始、2011年7月18日現在も連載続行中。

#### ■オールタイムベスト部門—大災害と復興

今回は東日本大震災の犠牲者への追悼と復興への願い、そしてご逝去された小松先生への感謝の想いを込めて、小松作品に触発されて破局的な地震・火山・津波とそこから立ち上がる人々を描いた作品からベスト5を選びます。

##### ・「復活の地」(小川一水、2004)

太陽アマルテを周回する惑星レンカの帝都を、市民500万人の約10%が死亡するという未曾有の大地震が襲う。この立ち直ってもいない首都を再び大地震が襲うこととなり、政治家や軍に失脚させられた主人公たちがそれ備えるためにいろんな手を打つ……。

この作品を書くため、作者は過去の大震災の沢山の資料を調べており、情報が来ないということ、行政機能の喪失、指揮命令系統の混乱、その他さまざまな事態のなかで、いかに機能する救難組織を再構築していくかといったさまざまな知見が盛り込まれている。

##### 「M8 (エムエイト)」／「TUNAMI (津波)」(高嶋哲夫、2004-2005)

「観測データからの予知」や「フィールドワーク至上主義」が主流のなか、主人公は地震のシミュレーション研究をしているポスドク。それに11年前に神戸の大地震を予測するも発表を躊躇し、震災で家族を失った元教授が協力する。政府が東海地震を警戒しているのに対し、主人公らは、地球シミュレータによる計算を実施した結果、東京直下地震が3日後に発生するという……。

続編の「TSUNAMI」では東京直下地震の6年後、今度は東海地震の可能性を予測しようとする。東海、東南海、南海地震が連動して発生することで起こりうる未曾有の津波被害を描く。

##### ・「ハイドゥナン」(藤崎慎吾、2005)

与那国島沖で発見された海底遺跡らしきものについて、誰がどうやって造ったか、そしてなぜそれが現在、海中にあるのかという疑問から出発し、与那国島に伝わる悲しい楽園伝説にも触発されて書かれた作品のようである。

科学技術面では、地球深部探査船「ちきゅう」の後継船となる深海掘削船が登場するが、その緊急オペレーションについて一般にはほとんど知られていない取材結果がたっぷり盛り込まれている。地球内部のさまざまな現象についてもリアルタイムに議論中の研究課題にまで踏み込んでいる。マントルから炭素が超高速で上昇してダイヤモンドとなるキンパーライトの噴出現象を描いたのは本書が初めてであろう。

地殻マントル内微生物などは最新の科学的知見より先に進んだ仮説を展開しているし、登場する1万m級有人潜水船も、海洋技術者のアイデアをふんだんに取り入れてなお一歩先を行っている。

もうひとつの側面は、筆者の他の作品にも通じるが、今の科学では説明できない能力を持つ少女と、その能力を「共感覚」を糸口として科学的に説明しようとする科学者たちを交えつつ、大胆に空想の世界を展開させている。そして自然描写の細やかさと色彩感覚の豊かさは本作品でも十二分に味わうことができる。

##### ・「日本沈没」(一色登希彦、2009 完結)

樋口監督リメイク映画の設定も取り入れつつ、小松左京原作にある有名な花枝のシーンや、中心テーマである日本人のディアスポラを見事に描き、さらに日本人の海外脱出阪神大震災での教訓を反映させ、しかも大胆かつ独創的に発展させた傑作。

日本沈没の物理メカニズムとして、これまでのプレートテクトニクスを根本的に覆すマントル鍾(コーン)モデルを提唱。日本列島を載せた鍾が回転しながら相転移で瘦せた分だけ沈むというもので、観測されているプレートテクトニクスは位相の現れに過ぎないとする。弱電流で作動する振動素子を推進器とする一万m級深海潜水艇“ケルマディック”が登場する。

##### ・「日本沈没 第二部」(谷 甲州、2006)

日本沈没の25年後。世界に離散した日本人はパプアニューギニアやカザフスタンなど世界各地に入植し、現地社会と葛藤しつつ適応していった。国土を持たない日本政府はそのアイデンティティを失わないために、日本列島が沈んだ海域に人口100万人規模の巨大な人工島メガフロートを建設する計画を進める。ところが地球シミュレータによる環境変動予測で寒冷化が進行しつつあることが明らかになってくる……。

##### ・「日本沈没」(樋口真嗣 監督、2006)

リメイク映画。沈没メカニズムとしてメガリス(スタグネーションスラブ)の崩壊、デラミネーション、地殻内微生物など新しい地球科学の知識が使われており、地球深部探査船「ちきゅう」などが生出演する。なんと日本列島の沈没を阻止するため、引退した「しんかい2000」を復役させ3700mという圧壊深度を超える決死の潜航が行われる……。

##### ・「日本列島は沈没するか？」(西村 一、藤崎慎吾、松浦晋也、2006)

”科学的”にはとても沈みそうにない日本列島を、できる限り”科学的”に沈めるための試行錯誤を通じて、一般読者にワンダーな地球内部の姿や進化の歴史を楽しんでもらおうという本。

地震波トモグラフィ、SPRING-8、地球シミュレータ、地球深部探査船「ちきゅう」などの新しいテクノロジー、さらには地震予測という課題に対し、研究者たちがいったいどのように取り組もうとしているかも紹介。また、33年前に出版された小松左京『日本沈没』が現実の潜水船開発と地震研究に及ぼした影響を検証し、さらに今後起こりうる環境難民問題を予見した同作品とその他、沈没・洪水テーマを扱ったSF作品の役割を再評価してもいます。

##### ・「死都日本」／「震災列島」／「昼は雲の柱(富士覚醒に改題)」(石黒耀、2002-2006)

作者は内科の医師。南九州カルデラ火山の巨大火砕流噴火で南九州が壊滅。さらに南海トラフのプレート境界地震を誘発……。続編の「震災列島」では、東海地震に東南海地震が連動、名古屋に大津波が。3作目の「昼は雲の柱」では富士山を題材。

##### ・「華竜の宮」(上田早夕里、2010)

(前出)

主催：海洋SFマーリングリスト [http://groups.yahoo.co.jp/group/earth\\_sf/](http://groups.yahoo.co.jp/group/earth_sf/) (管理者 西村屋)

全面協力：海洋少年少女冒険物語 <http://lautdua.sub.jp/> (Sayalaut)